

Estuary 046



エスチュアリ

～いしかり砂丘の風資料館だより～

☆エスチュアリ…「河口」の意味。北海道一の大河、石狩川と日本海とが出会う場所、それが石狩です。

展示資料のひみつ

リターンズ

先日、野外講座「石狩ビーチコーマーズ／冬の漂着物」が行われました。参加者の皆さんが石狩浜で拾った漂着物について色んなお話をしますが、そのお話を聞いていて、小学生の頃に海辺で拾ったスカシカシパンのことを思い出しました。

殻が平らで薄く、表面に花のような模様があるスカシカシパンを見つけた私は、名前も分からないまま、きれいな貝殻だなぁと思って持ち帰りました。特に調べることもなく、「きれいな貝」として私の机に飾られていたスカシカシパンですが、数年後ふと調べてみると実は貝ではなく、ウニの仲間だということが分かりました。私達が普段食べているウニとは形が全く違うことに驚き、貝殻だと思い込んでいた年月のせいか軽くショックを受けたことを覚えています。

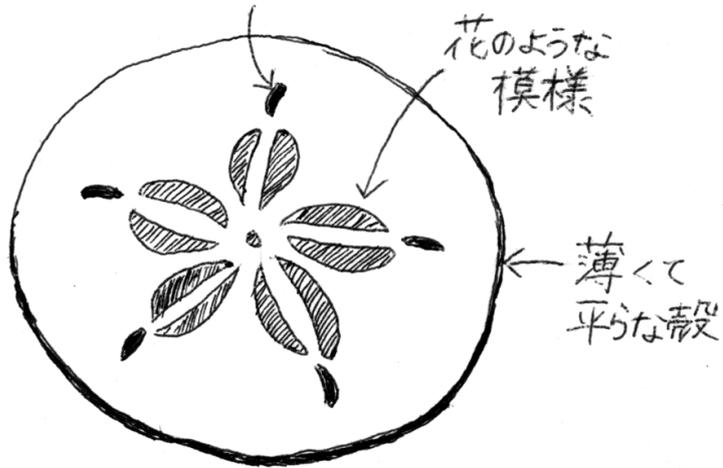
そんな思い出にならないためにも(?)、海辺で拾った漂着物がどんなものなのか気になる時には、ぜひ資料館へお越しください。浜辺からのメッセージというコーナーでは皆さんが拾った漂着物やそれに対するメッセージをご紹介しますので参考にしてみてください。もちろん、学芸員がいる時には直接どんどん質問してみてくださいね。◆

(木戸奈央子 きどなおこ)

ちよつとだけ

テーマ展「石狩のレアな貝」(開催中)で類縁種の「ハスノハカシパン」を貝にまぎれて展示中!

模様の先端に
穴があいている。



スカシカシパン

■スカシカシパン

Astriclypeus manni

棘皮動物門ウニ目カシパン科

直径14cm前後までなる

相模湾以南に分布

(日本海岸動物図鑑(西村1995)より)

流れ寄ったココヤシ

今年3月末、厚田区聚富(しっぶ)にある北石狩衛生センター前の砂浜で、ココヤシ(の実)を1個拾いました(図1)。実は茶色に変色して一部表皮がはがれた状態でした。小さなエボシガイの付着もあり、長時間海水に浸かっていたことを物語っています。ココヤシは日本列島では自生しないといいますから、はるか沖縄諸島以南から数千キロの漂流の果て石狩に流れ着いた可能性が強い。

ココヤシ(*Cocos nucifera* L.)はヤシ科の高木でココナツジュース、ココナツミルクがとれることで知られています。これらは堅い殻(内果皮)のなかにあります。その外側をとりまく繊維質の中果皮は「亀の子タワシ」などの原材料ですが、浮力が大きく丈夫で長期間の漂流に耐えます。北海道内でのココヤシの漂着例は2000年ごろから記録され始め、今では日本海側、太平洋側合わせて15例ほどあります。最北は天塩町ですが、石狩市付近では小樽市大浜、旧十線浜、石狩三線浜、あそびーち、望来浜、浜益川下で採取されています。実の大きさや状態や海流などの条件から、大半が自生地から流れてきたものでしょう。

ココヤシの「ココ」とはポルトガル語起源ともいわれ、内果皮の端に発芽孔など3つのくぼみ(図2)があり、それが猿(ココ)



図1: 2012年3月に採取したココヤシ

の顔のように見えることに由来するそうです。日本でも弥生時代の滋賀県守山市の下之郷遺跡や正倉院の収蔵品に、発芽孔などを目や口に加工作して人の顔に仕立てた容器があり、東西で同じような発想があったことをうかがわせます。



図2: 顔に見える発芽孔
(花夢ギャラリーより許可転載
Copyright (c) g-kamu.com)

国内では、このようなココヤシの内果皮の利用はさらに古い縄文時代から見られます。容器としては千葉県粟島台遺跡の例、加工は不明ですが内果皮は福井県鳥浜貝塚でも出土しています。これらも漂着したココヤシでしょう。北海道ではまだ遺跡からの出土例はありませんが、縄文人も頻りに海辺に来た形跡があり利用した可能性があります。◆

(石橋孝夫 いしばしたかお)

新しい学芸員が就任!

4月より、いしかり砂丘の風資料館学芸員として勤務しております荒山千恵です。専門は考古学。研究テーマの一つとして、遺跡から出土する木製品について関心を持ち、石狩低地帯をはじめ、日本各地(時には海外へ)で資料調査を行ってきました。当時の人々のものづくりへのこだわり・技・知恵に魅力を感じながら研究に取り組んでいます。

さまざまなモノに残されている過去からのメッセージを皆さんと共に共有し、発信していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。◆

備えあれば憂いなし？

忘れもしない今年の2月12日(日)の出来事です。その日は出だしから危うかったのです。資料館のある本町地区方向と厚田に続く石狩河口橋方向との境目にあるガソリンスタンドまで来ると、石狩河口橋方向の道路が通行止めになっていました。これは資料館に勤務して以来初めての経験。案の定、本町地区へ向かう道路は猛吹雪で視界ゼロ。何とか資料館には着くことができました。

猛吹雪の猛が何乗にもなる位のお昼過ぎ、北海道大学水産学部の学生さん2人が石狩浜に漂着したイルカ(生きていない)の調査にいらっしゃいました。“川の博物館”辺りで通行止めで、そこから先は「遭難しそう！」という思いで来たそうです。さらに浜辺では、強風と寒さ、波と戦いながらの調査です。学生さん達の研究にける情熱に猛吹雪退散と念じてみましたが、そう上手くは行きませんでした。

勤務時間も終わりに近づき、バス会社に運行状況を確認してみると、石狩の市街地で折返し運転で、こちらまで走っていないとのこと。家人の迎えも天候状況悪化のため無理。私の頭の中に帰宅困難者の5文字が浮かぶと同時に、資料館に何も備えをしていないことに気が付きました。地震に対しては勿論ですが、ここでは冬場の対応も必要なだと改めて思いました。でも、もし寝袋があって資料館で一夜を過ごし、映画“ミッドナイトミュージアム”のようになったなら…それはそれで楽しいかもしれませんが、怖がりな私にとって体験したくないものです。◆

(倉 雅子 くらまさこ)

これ→がウワサ←のイルカ。



2月11日、石狩浜海水浴場でイルカの死亡漂着が発見されました。体長1.6m、オスのネズミイルカです。翌日、北海道大学水産学部(函館)から、学生2人で調査のために回収に来ました。

暴風雪“警報”がガンガン発令されている中、回収に向かいます。…が、資料館から浜辺までのわずか200mほどの道のりも視界1mくらいのホワイトアウト状態。あやうく行方不明者が出るどころでした。

やっとのことで現地にとどり着き、吹雪の中、波をかぶり長靴に冷たい海水が入りながらの回収作業。漂着イルカの回収作業は何度もやってきましたが、これほど過酷なのは初めてでした。◆

(志賀健司 しがけんじ)



夏の講座の予告！ 詳しくは市広報6・7月号、資料館webをご覧ください。

自然観察会

海辺の風景再発見の旅

(主催：石狩浜海浜植物保護センター)

バスで石狩浜の魅力ポイントを巡ります。植物、昆虫、地学など、保護センターや資料館だけでなく、小樽市や札幌市の学芸員たちも加わって、ご案内します！

- 日時 6月30日(土)
- 集合 札幌駅または石狩市役所
- 問合せ 石狩浜海浜植物保護センター
(電話 0133-60-6107)



6月
開催

体験講座

勾玉作り

- 日時 7月22日(日)
- 場所 いしかり砂丘の風資料館

7月
開催

親子体験講座

テンキ編み(全2回)

- 日時 ①7月28日(土) 海浜植物保護センター
- ②8月4日(土) 市民図書館

7月
開催



5月～6月の講座・展示

特別講座

ウミベオロジー プラス

石狩海辺学+北の自然史最前線!

～北海道自然史研究会/石狩大会の一般公開～

いしかり砂丘の風資料館 特別講座

石狩浜海浜植物保護センター 海辺の自然塾特別編



石狩川が石狩湾に注ぎ、海岸線の総延長80kmにも及ぶ海辺の街、石狩。海浜植物や水生動物、海や川で発生する現象——。ここには他の地域では見られない独特な自然があります。そのため、多くの道内の研究者や学芸員が、石狩をフィールドとした調査・研究を進めています。そんな人たちの集まり、北海道自然史研究会の大会が、今年は石狩で開催！石狩の海辺の自然や北海道の自然史について、最新の研究成果・活動事例の発表が行なわれます。

(20分間の発表を13件予定。1時間の昼休みと、10分間の休憩が2回入ります。)

今大会の特集は「石狩海辺学(ウミベオロジー)」。

石狩市と研究会の共催として、市民のみなさんにも公開(※参加申込が必要)。海辺の街・石狩の自然や北海道の自然史の最前線を、研究者がわかりやすい言葉で語ります!

- 日時 5月12日(日) 10:00～16:00
- 場所 石狩市民図書館 視聴覚ホール
- 定員 一般25人(先着順)
(他に研究会会員が参加します)
- 費用 資料代200円
- 申込 5/9(水)までに電話で
資料館(0133-62-3711)へ



■石狩市広報に連載「いしかり博物誌」

- ☞第118回：寄贈された鮭たたき棒(2012年3月号)
- ☞第119回：太陽は丸くない!? (2012年5月号)

石狩市広報のPDF ↓
http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/publication/publication_top.html

テーマ展

ちよっとだけ

石狩のレアな貝



石狩や望来、銭函で見られる貝を、ちょっとレアなものを中心に展示!

資料館調査ボランティア、伊藤静孝さんの採集成果。石狩で見られるちょっとレアな貝が、全部で36種、大集合!

石狩の“レアじゃない貝”は常設展示しています。これらを合わせれば、石狩で見られる貝はほとんどコンプリート!(→合計64種!)

- 日時 5月1日(日)～6月25日(月)
- 場所 いしかり砂丘の風資料館

※資料館の入館料が必要です。

← ウミベオロジー(海辺学) …って?

海辺は、海と陸との境界線。
境界線では、いろいろな“もの”が会い、
さまざまな“事件”が起きます。
海と陸、さらには川、空、動物、植物、人間…
さまざまな海辺の出会いを考えていきます。

***** 編集後記 *****

雪が融けて、土日になると資料館には見学者以外にいろいろな人が訪れます。いつもお世話になってる解説ボランティア、骨格標本を作る人、漂着物の展示を作る人、フィールド調査の情報収集に来る学生、自分の採集物を見せに、あるいは正体を調べに来る人…。こちらもちしくはなりますが、おかげで自分1人でできる何倍もの資料・情報の蓄積、展示の充実化が進みます。いちばん嬉しいのは、みんな実楽しそうに作業していること。博物館はこうでなくちゃ!(け)

いしかり砂丘の風資料館

- 開館時間 午前9時30分～午後5時00分
- 休館日 毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始
- 入館料 300円(中学生以下は無料)、
団体料金240円(15名以上)
- 交通 中央バス札幌ターミナルより石狩行き乗車、
「石狩温泉」下車、徒歩1分
(石狩温泉「番屋の湯」となり)

エスチユアリ No.46

2012年5月5日発行

いしかり砂丘の風資料館
〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4
TEL/FAX: 0133-62-3711
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp
<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>